

更生支援の可視化シート（案）

〜対象者像〜

- ・生活が困窮している
- ・障害がある、又はその疑いがある
- ・慢性疾患がある
- ・親族がいるが頼れない（受入拒否、高齢、障害、疾患等）
- ・家族と不和で家に居場所がない
- ・人間関係が苦手で就労が続かない など

共通課題

- ①本人同意
- ②複合課題や、分野の定まらない課題を抱える場合
- ③受け入れ先が見つからない
- ④過度な関与による人権侵害の恐れ
- ⑤捜査、公判、処遇、社会復帰に必要な情報がそれぞれ異なる

警察
提供
視点
課題

○基本的な知識や相談先等についての情報提供
本人同意、暴力団等組織の関与、他機関との連携

検察庁

○福祉関係機関へのつなぎ・同行・手続事務支援（入口支援）
視点 円滑な社会復帰の促進による再犯の防止
課題 更生支援に関するワンストップセンターがあるとよい

刑務所

○社会福祉士等による各種調整
視点 円滑な社会復帰支援、改善更生の意欲の喚起、能力育成、ソーシャルワーク）
課題 本人同意、個人情報提供、地域による社会資源の偏りの解消、出所時期が土日祝日だった場合の対応（生保窓口が対応不可等）、入所中からの関係機関との連携、対象者の家族等生活環境全体の評価・支援、出所後のフォロー

保護観察所

○宿泊・帰宅先確保の援助、就労支援、応急の救護
視点 再犯・非行を 방지、改善更生することを助ける
課題 本人同意、関係機関へのつなぎ（どこにつないだらよいか）

地域生活定着支援センター

○受入先の調整等
視点 福祉による生活支援、事件背景の正確なアセスメント
課題 住民票の職権削除の在り方

医療機関

○疾病の診断・治療・管理指導、障害の評価
視点 必要な社会保障を受けられるように
課題 情報の共有方法（媒体）、本人同意

弁護士

○勾留中の継続的面会、訴訟活動
視点 最善弁護・法的問題解決
課題 弁護士側の障害や疾患、支援制度、支援機関等への理解や技能促進、裁判終了後の支援、生活面での支援

宅建業協会

○居住先探しのサポート
視点 住居の確保
課題 大家の理解を得やすくするための体制づくり

更生保護施設

○宿泊・食事の提供、就労支援、生活指導、福祉・医療のあっせん
視点 円滑な社会復帰を助けて再犯を防止する
課題 住居及び就労先の確保

自立準備ホーム

○宿泊・食事の提供、就労支援、生活指導
視点 寄り添う気持ちで生活指導や職業指導を行う
課題 本人の協調性や忍耐力が必要

保護司会連合会

○就労支援
視点 地道に生きることへの希望を与える
課題 本人の心の支えとなる事業者

就労支援事業者機構

○就労支援（本人に適合する雇用主の選定）
視点 福祉的支援の先行よりも、経済的に自立できる道筋の提示
課題 就労後の見守り強化、支援関係機関で対象者の個人情報共有できるような制度の確立

中核地域生活支援センター

○直接支援、関係機関の調整、家族等への働きかけや支援
視点 本人が地域から排除されずに暮らし続けていくために
課題 帰宅先市町村の調整、介護や障害に非該当の場合の日常生活支援、身寄りがない人の支援、モデル事業終了後の調整

県

○広域的調整、分野横断的施策
視点 本人を中心とした支援の在り方
課題 他自治体との連携・支援の標準化

市町村

○相談窓口、各種福祉サービスの提供、就労支援
視点 本人の帰宅先地域の自治体として
課題 早期からの十分な情報収集、矯正施設入所中からの手続・医療受診の開始

更生支援が必要な人



共通課題

- ①本人同意
- ②複合課題や、分野の定まらない課題を抱える場合
- ③受け入れ先が見つからない
- ④過度な関与による人権侵害の恐れ
- ⑤捜査、公判、処遇、社会復帰に必要な情報がそれぞれ異なる

更生支援の可視化シート【少年版】 (案)

- ～対象者像～
- ・生活が困窮している
 - ・障害がある、又はその疑いがある
 - ・慢性疾患がある
 - ・親族がいるが頼れない(受入拒否、高齢、障害、疾患等)
 - ・家族と不和で家に居場所がない
 - ・人間関係が苦手な就労が続かない など

警察
○社会奉仕、スポーツ活動などへの参加機会の確保
視点
課題 本人・保護者の同意、他機関との連携

検察庁
視点 円滑な社会復帰の促進による再犯の防止、少年の健全育成

少年院
○地域生活における支援体制の構築、コーディネーター役の設定、就労・就学支援
視点 対象者の安心安全な生活環境の構築、安定した生活の確保
課題 地方公共団体との情報共有の方法の明確化、本人同意、複合的な支援課題の解決、GH等の受皿の拡大
少年鑑別所
○法務技官・法務教官による心理アセスメント、支援の提示、助言
視点 問題や課題への焦点化
課題 他機関との連携、マンパワー

保護観察所
○宿泊・帰住先確保の援助、就労支援、応急の救護
視点 再犯・非行を防ぎ、改善更生することを助ける、教育
課題 本人同意、関係機関へのつなぎ(どこにつないだらよいか)、家族が受入拒否した場合の帰住先確保

地域生活定着支援センター
○受入先の調整等
視点 福祉による生活支援、事件背景の正確なアセスメント
課題 少年事件に対する児相の関わり方

医療機関
○疾病の診断・治療・管理指導、障害の評価、学校・児相との連携
視点 必要な社会保障を受けられるように、本人の成長に資するように
課題 情報の共有方法(媒体)、本人との信頼関係構築、家族関係の調整

弁護士
○拘束中の継続的面会、親・学校・職場等との連絡
視点 最善弁護・法的問題解決、生活面の支援
課題 関わる期間・機関が限定的で、独りよがりの支援となるリスクの解消、福祉的支援の標準化

県
○広域的調整、分野横断的施策
視点 本人を中心とした支援の在り方
課題 他自治体との連携・支援の標準化

市町村
○相談窓口、世帯全体への支援策検討
視点 本人の帰住先地域の自治体として
課題 多機関での協働、18歳以降の支援、更生支援としての生活全般に係る相談支援システムがあればよい

更生保護施設
○宿泊・食事の提供、就労支援、生活指導、福祉・医療のあっせん
視点 円滑な社会復帰を助けて再犯を防止する
課題 就労先の確保

自立準備ホーム
○宿泊・食事の提供、就労支援、生活指導
本人の生活態度、心構えの改善指導
視点 自立を促し再犯を防止する

保護司会連合会
○家族関係・交友関係の修復の支援
視点 将来に向けての本人の成長

就労支援事業者機構
○就労支援(本人に適合する雇用主の選定)
課題 すぐに役立つ教育のみでなく、生涯役立つ教育を

中核地域生活支援センター
○直接支援、関係機関の調整、家族等への働きかけや支援
視点 本人が地域から排除されずに暮らし続けていくために、本人の健全な発達のために
課題 帰住先市町村の調整、介護や障害に非該当の場合の日常生活支援、身寄りがない人の支援、居場所・学びの場の確保、モデル事業終了後の調整



更生支援が必要な人